

## 緑豊かで居久根のある、 安全で心豊かなまちをめざして

第13回「西玉浦地区まちづくり検討委員会」が、2013年1月9日、岩沼市役所にて開催されました。

今回のまちづくり検討委員会では、この間の委員会でまとめられた7つの方針に基づいて東京大学大学院教授石川アドバイザーが立案した公園緑地計画を元に、各班が議論を行う形式で進められました。まず始めに、石川アドバイザーの方から、①郷土の文化的景観である居久根の再生を行う。②千年に一度の大災害の復興第一号となることに鑑み、力強い復興を世界に発信できる計画とする。③日本の美しさを日々の暮らしの中で、実感できる、心豊かなまちを創り出す。④生物多様性に配慮した設計とし、生き物との共生をはかる。⑤安全で、安心な公園・緑地とする、といった具体的な設計を行った際の基本方針に関する説明がありました。

次に、1/200のスケールで作られた模型を用いて、公園緑地計画の具体的な説明が行われ、その計画案をベースに各班が、当地域の公園緑地計画を議論しました。ワークショップの成果発表の場では、丘と、居久根公園の池に対する意見が多く見られ、高さにこだわらずに、使いやすい丘を希望する意見、水がたまっているとよくないので、朝日山の流れのように、いつも水が流れる池であって欲しいと言った意見等がそれぞれ出されました。また、相野釜のシンボルとなる木を緑道に植えたいといった意見も出されました。敷地全体に関する意見は、フットパスがない街区にもフットパスを作りたいといった意見から、樹木の維持管理に関して、枯葉の処理の困難さを指摘し、公共に管理してもらいたいといった意見も出ました。

終わりに、阿留多伎委員長が、イギリスのニュータウンでは何故緑が多いのかという話をされました。それは、人々が庭を一つの部屋と考え、生活の場として利用してるからです。公園緑地計画もそういった考え方でいくことが大事なのではないでしょうか。

